

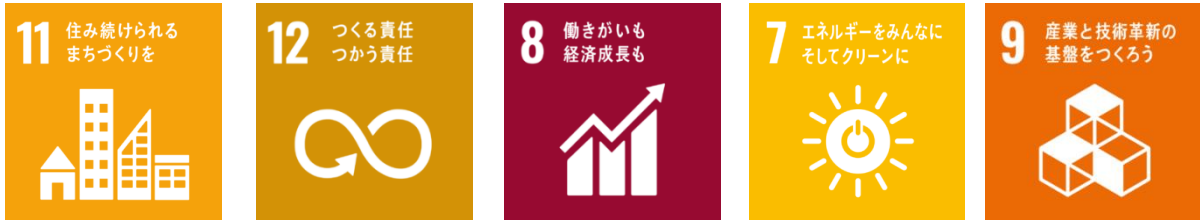


がっこうとしょかん  
～学校図書館だより号外～

ブックマ

# えど せいかつ 『江戸のおどろきリサイクル生活』

いしかわえいすけ かんしゅう ねんしよほん すずきしゅつぱん か だしし かの (2の書棚)  
石川英輔 監修 2009年初版 鈴木出版 貸し出し可(2の書棚)



みなさんは、徳川家康という人を知っていますか？ しらなくても、名前だけは聞いたことがあると思います。

徳川家康は 1603年に今の東京に「江戸幕府」を開き、そこで政治のしくみを確立させていきます。徳川家康が築いた政治のしくみは、そのあと 260年近く日本の国の 礎 となります。

江戸時代というと、ちよんまげ姿や着物、お侍さんや刀…などを思い浮かべる人も多いと思います。当時は、当然、電気もガスも水道もありません。しかし、江戸のまちの人口は 100万人を超え、当時としては人口も面積も世界一の大都市に成長していたといわれています。

その江戸時代には多くのすぐれた文化が生まれますが、まちの人たちの生活も美に生き生きと今のSDGs(持続可能な開発目標)に通じるものがあつたようです。そのことが最近大いに注目されています。

江戸のまちの人々は「長屋」とよばれる小さな家を何軒もつなげて建てたワンルームのような住宅に住んでいました。江戸の人たちはくらしに必要な物しかもっていないので、せまいと感じることなくくらししていたようです。

物をたくさんもたずに生活できた大きな理由の一つが「リサイクル」です。リサイクルとは、不要になった物をもう一度使えるようにするという意味の英語です。物を大切に長く使い、リサイクルがうまくできていれば、よけいな物を持たなくても暮らせます。物が貴重だった時代の人にとって、リサイクルをするのはあたりまえのことだったようです。

一つのことを徹底的に修理したり回収したりして、物を極限まで活用する感覚…これは今私たちに本当に必要なことです。

リサイクルやSDGsなどという言葉がない時代でも、徹底したリサイクルをしていた江戸のまちの人たちの暮らしを、ぜひ、この本で読んでみましょう。

今の私たちに必要なことがきっと見えてきます。

